

「浜岡原発を語るかい」(代表世話人東井様)からの返答内容

(7月12日返答内容)

3日の当会での反応・意見は、正直全面的に案とは相反するものであったので困惑し、さらに市内外の市民や周辺自治体関係者等にもご意見を聞きました。県にもご相談しました。マスコミ関係者にも聞きたいとは思っていますが、これはまだ実現していません。

以下皆さんの意見を世話人としてまとめました。(住民の中では相互に対立する意見はほとんどありませんでした。)

1. 開催地について

- ・静岡市と御前崎市ではまったく意味が違う。前者は消費地、後者は地元立地町。
- ・今回は、地元からの要請なので、地元開催をお願いしたい。
- ・テーマ「知りたい情報は届いていますか」は、地元向け。
- ・そのテーマで「ご意見を聴く」というのであれば地元で開催されなければ意味がない。
- ・静岡市での開催は、高速バスで往復3時間、バス代3000円以上かかるので、とても地元の人参加しやすくなるとはいえない。一般市民の参加はほとんどゼロだろう。
- ・地元で開催されても、市外からの参加は十分期待できる。周辺自治体の市民や関係者も参加したいと言っている。

2. 参加人数について

- ・500人くらい入れる会場で、応募してきた人を断ることのないよう、最低300人は入れるように。(事前に参加申し込みをしなくて済むほうがよいが。)

3. 開催時期

- ・「福岡よりあと」は止むを得ないとして、何時ごろを想定しているのか。出来るだけ早くを希望。

4. 構成、プログラムについて

- ・基本的に了解せざるを得ないのかと思う。
- ・ただ、想定東海地震については、住民の間でも現在想定されている姿がわかっていない。様々の受け取り方があり、共通認識の上に話を進める方がいいので、政府の(すなわち中央防災会議の)想定する東海地震について数分ほどでもいいので、プレゼンをお願いしたい。

・以上、開催地について、全員口をそろえて地元で、という強い希望でした。是非ご理解ください。万一どうしても御前崎ではやれない事情でもあるということでしたら、世話人としてなんとか代案を提起するようにしたいと考えています。

・次が人数の問題で、地元の間人が参加しにくいという事情をご理解くださるなら、試みとして応募方法を含めて再考いただきたい。

・その他は、そこまで話が進まなかったという感じです。基本的には納得していただけたと受け止めています。

(8月1日返答内容)

- ・第一部の説明に付記されている「地震学者によるパネルディスカッションをご希望」については、すでにそういう場ではないことは了解していただいています。
- ・その上で、共通認識のもと話し合わなければ、想定東海地震は巨大な象ですので、無駄な議論になりかねないので、どこでもいい、原点の位置を明らかにしましょうと提案させていただきました。それが「数分のプレゼン」の提案趣旨です。
- ・原点として、+5でも、-3でも、どこに置いてもいいです。まあでも中央防災会議の想定を原点としていただければ、まず文句はないと思います。その上で「その想定は甘すぎる」「だったら浜岡原発は十分耐えられる」……といった発言が意味を持つてくるものではありません。
- ・説明者は中央防災会議などの事務局の方でもよいでしょう。原発についてはなんら触れる必要はありません。どんな地震を想定しているのかと、簡単な被害想定で十分です。いくら地震に焦点をあてないようにしたいと思っても、静岡で、原発といえば誰しも東海地震……を連想するのですから、また地元としては安全問題が最優先課題ですから、主催側からそうしたプレゼンをなさることはなんら不自然ではありません。
- ・原子力委員会のご挨拶で、もしくは浜岡原発の抱える問題(プルサーマルに付いても取り上げたいのではないかと察するのですが)として、発言者等自己紹介(コアメンバーの方々に静岡の紹介として?) etc. 何かうまい方法をお考えください。

以 上